



トピックス 水痘について

詳しい情報は熊本市感染症情報をご覧ください

水痘-带状疱疹ウイルスによる感染症で「みずぼうそう」として知られている病気です。年中みられますが、12月～7月に多い傾向があり、9歳以下に多くみられます。（水痘は平成30年9月の36週から、注意報レベルが4⇒1へ。警報レベルが7⇒2へ変更になりました。）



◆どんな病気？

【**症状**】全身性のかゆみを伴う発疹と、38℃前後の発熱が主な症状です。発疹は、まず赤い斑点ができて（紅斑）、次第に盛り上がり（丘疹）、水ぶくれになり（水疱）、かさぶた（痂皮）になります。これらの紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在しているのが特徴です。通常、軽症で終生免疫を得ることが多いですが、ウイルスは治ったあとも体の中に潜伏していて、後に「带状疱疹」として再発することがあります。

【**感染経路**】空気感染、飛沫感染、接触感染。すべての発疹がかさぶたになるまで感染力があります。また、感染力も強く、1人が何人に感染させるかを示す数値（基本再生産数 R_0 ）では、インフルエンザが「 $(R_0) 1-2$ 」に対し、水痘は「 $(R_0) 8-10$ 」と、インフルエンザの約5倍の感染力があります。

◆かかったらどうすればいいの？

・治療は塗り薬が中心になります。重症の場合もしくは重症化の防止として、抗ウイルス剤を使用することもあります。

・熱が高いときは特に、水分をしっかりとらせ脱水にならないように気をつけましょう。発疹が出たあとも高熱が続いたり、ぐったりしているときは早めに医療機関を受診しましょう。

・水痘は、学校保健安全法により第二種の感染症に指定されており、登校基準は原則としては、すべての発疹が痂皮（かさぶた）化するまで出席停止とされています。（病状により、医師が感染のおそれがないと認めたとときを除く）

◆予防法は？

・予防接種が有効です。2014（平成26）年10月1日から、水痘ワクチンが定期接種となりました。

期 間		2019年 29週		2019年 30週	
		7/15～7/21		7/22～7/28（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	1	0.04
RSウイルス感染症		9	0.56	18	1.13
咽頭結膜熱（プール熱）		12	0.75	5	0.31
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		17	1.06	19	1.19
感染性胃腸炎		63	3.94	39	2.44
水痘（みずぼうそう）		2	0.13	9	0.56
手足口病		86	5.38	75	4.69
伝染性紅斑（りんご病）		9	0.56	13	0.81
突発性発しん		13	0.81	11	0.69
ヘルパンギーナ		31	1.94	33	2.06
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		1	0.06	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）		13	2.60	16	3.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
無菌性髄膜炎		1	0.20	2	0.40
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0	0.00	0	0.00